

学校再開に係る児童生徒の心のケアに関するガイドライン

(小中学校版：令和2年5月25日)

本日、県内公立小中学校がそろって完全再開を迎えました。昨年度末からの臨時休業が子どもたちの心身に少なからず影響をもたらしていることは容易に想像できます。そこで、文部科学省の通知等を参考にして、児童生徒の心のケアや環境の改善に向けた取組を推進するための愛媛県版ガイドラインを作成しました。

★児童生徒が安心して安全に学校生活を送るためには――

まずは、ストレスの要因を分析（特定）することが大切です。

<例>

- 感染への不安（自分や家族も感染するのではないか）
- 自分の将来への不安（学習面、進路等）
- 学校生活に対する不安（学級、部活動、交友関係、ネットトラブル等）



分からない → 不安 → ストレス蓄積

分かる → 安心 → ストレス軽減

新型コロナウイルス感染症に関連する情報について、児童生徒に正しく伝える

何かの出来事が起こった際、その出来事に関するいろいろな情報やうわさが広がり、どの情報が正しいのか判断が難しくなることがあります。インターネットやSNS等を通じて情報が拡散し、児童生徒はその影響を受けやすい状況にあります。

特に、新型コロナウイルスに感染し、快復した後に学校へ登校する子ども等に対する偏見や差別が生じないように、学級の児童生徒には、日頃から新型コロナウイルスについて分かりやすい言葉で伝えておくことが大切です。

1 《学校再開後》の心のケア

(1) 偏見や差別から感染者・濃厚接触者を守る

ア 児童生徒への指導

- 感染者、濃厚接触者とその家族、この感染症の対策や治療に当たる医療従事者の家族に対する偏見や差別につながる行為は、絶対に許されないことであり、新型コロナウイルス感染症に関する適切な知識を基に、発達の段階に応じた指導を行うことなどを通じ、この

ような偏見や差別が生じないようにする。

- 誰もが感染者、濃厚接触者になりうる状況であることから、隔離や治療を余儀なくされた人やその周辺の方々の困難、偏見や差別の対象となりそうな人の苦しみに寄り添う。
- 偏見や差別が原因によるいじめの発生を防ぐ（咳をしている、マスクなし、欠席していること等へのいわれのない中傷やウイルス名を面白半分に使うことなど）。

イ 教職員の対応

個人情報保護の観点から、児童生徒及びその関係する感染者、濃厚接触者等の状況についての秘密を守る。特に、文書の配付において情報漏洩につながる表記がないようにする。

(2) 学級経営について

★登校への不安、ストレスを感じている子どもの立場に立つて——

- 学級担任の思いをしっかり伝える（学級に期待することを示した板書や便りなど）
- 「あなたがいてよかった。みんながいてよかった。」というメッセージを伝える
- 学級目標、いじめを許さないこと、多様性を認めることなどを伝える
- 教室環境を整える（整理整頓、学級担任の願いや思いを伝える掲示物など）
- 子どもを笑顔にする活動を考える（濃厚接触を避けて楽しめるゲームなど）

☞ 「この学級でよかった」「明日も来たい」と思えるような温かく楽しい時間・空間を演出

(3) 新入生への対応について

★自己決定の場面を増やし、自信を持たせるために——

- 「自分でできる」、「自分で決められる」という安心感を持たせる
- 一方的に学級担任が指示を出すのではなく、これまでの経験を表出させ、学校や学級の諸活動とつなぐ
- 「どうしたいの?」「この後どうするの?」と尋ねて自己決定を促す
- 「できること」も「できないこと」も受け止め、徹底的に寄り添う

★「安心」「楽しい」と思える学校生活のスタートを目指して——

- 学級担任も子どもも笑顔になれる活動を考える
⇒ エア握手やまねっこ活動など、接触しなくても互いの存在を感じながら楽しめるような活動、ダンス、楽しい合図など ※子どもと一緒に考えるのも大切

2 児童生徒の観察

児童生徒は、学校と家庭とで異なる様子を見せることがあります。

次のチェックリストを参考にして、気になる様子については、家庭と密に連絡を取り合い、学校の様子を伝えるとともに、プライバシーに配慮したうえで、家庭での様子を詳しく聞いてみるとよいでしょう。

状況によっては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどと連携し、チームとして対応する必要があります。

心の問題については、「早期発見、早期対応が大切である」、「初動がうまくいけば、問題が大きくなるしない」ことを常に意識したいものです。

(1) チェックリスト

【行動の変化をみる】～いつもと違う子どもの言動に気を配る～

- 登校を渋る
- 学習意欲が低い
- ささいなことで物を壊したり、人に攻撃的になったりする
- ささいな物音に驚く
- 一人になることを嫌がる
- 好きなことでもやりたがらない
- 反抗的になる
- 何度も手を洗ったり、少しの汚れを気にしたりする
- 親のそばから離れず、強い甘えがみられる

【体の反応をみる】

- 食欲がない、あるいは過食になる
- 体の痛みやかゆみを訴える
- 眠れない
- 夜尿が始まる、あるいは増える
- 以前にはみられなかったチック（自分の意思とは関係なく起こる素早い動作や発声が繰り返し起こる状態）が出たり、以前よりもチックが激しく出たりする

【以前と異なる、表情や会話の変化をみる】

- ぼんやりしている
- ささいなことで泣く
- 元気がない、あるいは元気であるがひどく興奮している
- 笑わなくなる
- 喜怒哀楽が激しい、あるいは無表情になる
- 一方的に話し、会話が成立しない
- 新型コロナウイルスの話をするとう、表情がかたくなる

(2) 保護者や関係機関との連携

- 新型コロナウイルス感染の影響により、通年の年度末・年度始に比べ、子どもにとって、環境の変化や人間関係の変化が大きく、不安や緊張から不適應や自死、非行等へのリスクが高まる可能性があります。そのため、生徒指導上、心配かつ気になる子どもへの定期的な家庭連絡や安否確認、情報の収集など、教職員の役割分担を適切に行い、チームで対応できる体制を確立しておく必要があります。
- 各関係機関（警察や児童相談所、医療・福祉関係機関等）とのネットワークを活用したり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用したりして、子どもの心の揺れや危険因子を見逃すことがないよう、また、緊急事態にも迅速かつ適切な対応ができるよう、全教職員の連絡・協力体制等を再点検・再整備することも求められます。